

かわにし

議会だより

第124号

2016

1.15



願いをこめて

中郡すぎの子クラブの餅つき P25に関連記事

川西町 初の女性議会

女性の声を町政に 2

27年度の政策提言を提出 6

「かわにし未来ビジョン」を可決 ... 10

産業振興など5議員が町政をただす ... 14

初の女性議会

川西町誕生60周年記念事業として、町と議会が共催する「女性議会」が、11月22日に開かれた。テーマは「女性の視点でおらだのまちを考えよう」。目的は、「女性の活躍の場が求められる今日、生活に密着した課題や問題を捉え、女性の内に秘めた熱い思いを町政に反映させる」である。議会独特の、張り詰めた緊張感のなかで、一般質問、関連質問を行い、女性の声を町政に反映させる、初の本格的な「女性議会」となった。

女性の声を

町政に



華やかな女性議会。女性議員の登場が望まれている。

女性議会



川西町誕生60周年



中田裕子議長

町誕生60周年記念事業

本町において、これまで青年議会や中学生議会は開かれていたが、女性だけの模擬議会は初めてであり、町誕生60周年記念事業にふさわしい事業となった。

置賜3市5町の議会では、女性議員のいない議会は川西町だけ。町の各種審議会17のうち、女性のいる審議会は14、女性の割合は18・9%にすぎない。

女性議会は、公募3人、団体推薦2人、地区推薦7人、選挙権が18歳に引き下げられることから置賜農業高校生3人を含め、15人で構成された。

3委員会代表が一般質問、全議員が関連質問

9月20日に辞令交付が行われ、5人ずつの「ひとづくり」「ちいきづくり」「しごとづくり」の3委員会に所属し、それぞれ一般質問を行うため、数回にわたって委員会を開き、当日に臨んだ。

「ひとづくり」「ちいきづくり」「しごとづくり」の3委員会に所属し、それぞれ一般質問を行うため、数回にわたって委員会を開き、当日に臨んだ。

は変則的ではあるが、委員会ごとに質問答弁を合わせて60分の時間制限の中で代表質問を行い、全議員が関連質問を行うこととした。

「ちいきづくり委員会」「窪村郁子さん」「しごとづくり委員会」「我妻優子さん」が行った。その後、全議員が一問一答方式によって、活発な関連質問を行った。

女性議会議員名簿

議席番号	氏名	出身地区	選考基準	所属	役職
1	高橋 亜紀	小松	置賜農高	ひとづくり委員会	代表質問者
2	藤本 亜希	玉庭	一般公募	ひとづくり委員会	
3	佐藤美由紀	東沢	地区推薦	ひとづくり委員会	
4	竹田 恵子	小松	地区推薦	ひとづくり委員会	委員長
5	江袋 淳子	犬川	地区推薦	ひとづくり委員会	
6	竹田 愛海	小松	置賜農高	ちいきづくり委員会	
7	窪村 郁子	小松	未来づくり委員会	ちいきづくり委員会	代表質問者・委員長
8	大河原千代美	小松	一般公募	ちいきづくり委員会	
9	鈴木 明美	吉島	地区推薦	ちいきづくり委員会	
10	黒澤 昭子	大塚	地区推薦	ちいきづくり委員会	
11	遠藤 有華	吉島	置賜農高	しごとづくり委員会	
12	江本 牧子	小松	一般公募	しごとづくり委員会	委員長
13	我妻 優子	吉島	未来づくり委員会	しごとづくり委員会	代表質問者
14	齋藤みち子	中郡	地区推薦	しごとづくり委員会	
15	中田 裕子	玉庭	地区推薦	しごとづくり委員会	議長

看護学校を設置しては

町長 ― 病院組合と協議する



江袋 淳子 議員 竹田 恵子 議員 佐藤美由紀 議員 藤本 亜希 議員 高橋 亜紀 議員

問 公立置賜総合病院に看護学校を設置できないか。

町長 良い提案だが、病院は、県と2市2町が共同で運営しており、町の意向だけでは難しい。早期に実現できるように運動していきたい。

問 小松保育所の保育時間を延長できないか。

町長 子育て支援新制度では、標準保育時間を11時間としている。小松保育所は7時30分から18時30分としている。1時間延長は今後の大きな課題と受け止め、検討したい。

教育 学区再編について、複式学級がある校区ごとに検討委員会を協議されており、その報告を最大限尊重して進めていく。

問 病児保育の充実を図れないか。

町長 美木木げんき保育園で病児保育が行われており、全国から注目を集めている。公立置賜総合病院への設置提案は、利用状況から見て厳しい。

問 町民運動会、町民パレードの廃止は残念だ。

町長 24年度から「かわにし夏まつり」を開催し、今年は6000人が参加した。若者の出会いの場をつくることも大事だ。

女性起業のモデル事業を

町長 ― チャレンジする人を支援



中田 裕子 議員 齋藤みち子 議員 我妻 優子 議員 江本 牧子 議員 遠藤 有華 議員

問 女性起業者の長期的なモデル事業を考えてみてはどうか。

町長 これまで、キャベツやネギ、ダリアへの取り組みに3年を別途とし、支援してきた。

問 「かわにし森のマルシェ」の施設に、賑わいづくりの機能を取り入れたか。

町長 直売所、レストラン及びデリカキッチンを整備する。レストランは、気軽に利用できる休憩スペース

問 置賜農業高校と連携した観光を考えたれないか。

町長 観光ガイドや施設環境整備に幅広く活動していただいている。今後も置賜農業高校やNPO法人えき・まちネットこまつとの連携を図り、地域の魅力を伝える活動を支援したい。

問 町に住み続けていくために必要なこと、対策は。

町長 現在、かわにし総合戦略の策定を進めている。公立置賜総合病院周辺の整備を図り、若者の定住や雇用の場の確保を図っていく。

空き家を有効活用できないか

町長 ― 空き家バンクを充実



黒澤 昭子 議員 鈴木 明美 議員 大河原千代美 議員 窪村 郁子 議員 竹田 愛海 議員

問 空き家の有効活用を図るうえで、相談窓口の設置や、情報提供に取り組むべきではないか。

町長 町で空き家バンク登録制度をつくっており、希望者に紹介している。町外からの移住・定住者の居住、結婚や子育てを機会に新居を求める町内外の人たちに有効活用していただきたい。

問 安全な生活環境を守るための空き家、空き地対策が必要でないか。

町長 現在、町で把握している空き家は約250件、そのうち約50件は長年放置され危険な状態にある。緊急性を判断しながら所有者や管理人に連絡し、管理や対応をお願いしている。町では条例を制定し、所有者の適正管理を義務付けている。

問 ホームページの情報発信を充実せよ。

町長 ホームページを魅力あるものにするために、即時性、速報性に優れているSNSの特性を生かすフェイスブックを導入し、ホームページの運用と併せて情報発信の充実を図っていきたい。

全議員が感想「町が好きになった」

女性議員からの質問に、原田町長はじめ当局職員が答弁を行った。提言いただいたこと、答弁したことを今後施策として形にしていくことが求められる。議会終了後に、全議員から感想が述べられた。主なコメントは以下のとおり。

- ・大変良い経験をした。川西町がますます好きになった。

中田議長「楽しい1日だった」

議員になり、町を考えることができ、充実した日々を過ごした。これからは町のイベントに参加したい。久々に高揚した気分になった。町政運営をよろしく。多くの町民に知っていただくため、自分のできることをやりたい。年をとってもチャレンジしたい。

中田議長が「議長と

この成果を町政運営に生かすことこそ、町長、議会に課せられた課題である。



鋭い質問に答弁にも力が入る



凜とした緊張感が漂う議場

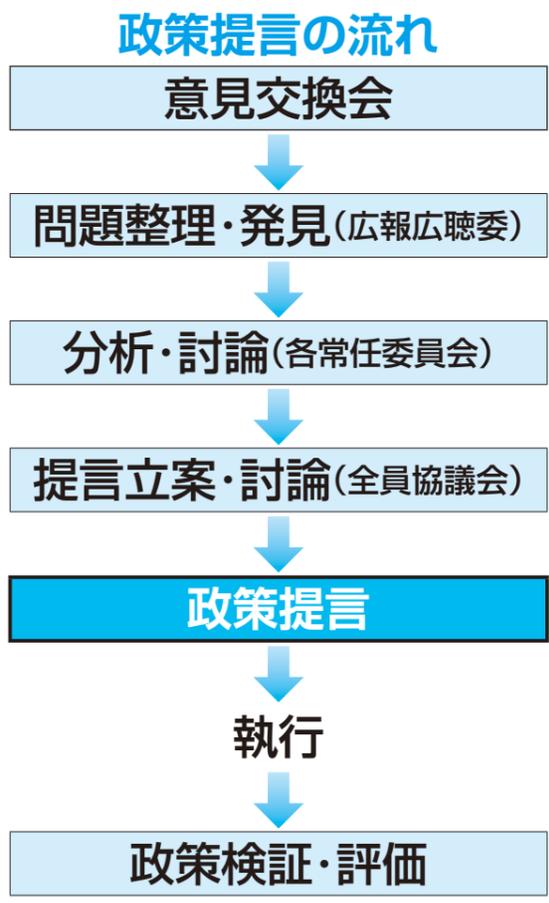
※ SNS (ソーシャル・ネットワーキング・サービス) インターネット上の交流を通して、社会的ネットワークを構築するサービス。フェイスブック、ツイッター、ライン等がある。

27年度の政策提言を提出

未来ビジョン・総合戦略に反映を期待

11月20日、本年度で3回目となる、27年度政策提言書が加藤議長から原田町長に提出された。
8月18日、19日に行われた町民との意見交換をもとに、各常任委員会での協議のうえ練り上げられたものである。
本年度の提言は、昨年度からの継続である町有施設のあり方については、より町民にわかりやすく行程を示すことを求めた。

6次産業化拠点施設運営については、オープンを前に集客・利用を意識した提言となった。
新たに、人口減少対策の一つである定住促進対策と公立置賜総合病院周辺の土地利用を加えた。町の在り方を左右する地方創生や新総合計画の実施に向けた提言である。
これに対して、町長から12月10日に回答があった。



加藤議長から原田町長へ「政策提言書」を手渡す

町民生活向上のために、

1 提言 定住促進対策に 取り組み

- 1 若者定住移住促進のため、「若者未来塾交付金事業」のさらなる充実を図る。
- 2 若者の「出会いの場」づくり、取り組む。
- 3 子育て支援の一つとして、学力日本一「かわにし」を目指す。
- 4 福祉、子育て、住宅、除雪、移住および産業振興などが行う支援を網羅した、「町民生活応援ガイドブック(仮称)」を作成する。

ガイドブック 29年度に完成させたい

回答

若者交付金事業は、将来の町を担う人材およびリーダーを育成する人づくりを推進するため、一層の充実を図る。

集うイベント、若者目線が集まりやすい出会いの場を「創造」し、サポートしていく。

学力向上について、指導面では研究授業の充実を図り、児童生徒

については、放課後の学習支援を充実し、「やる気」を引き出していきたい。

ガイドブックは29年度中に完成させるため、研究を進めている。

どういったらどうか!



活躍する若者たち — かわにし夏祭り

どうやったらどうか!

2 提言 公共施設管理計画に 具体策を

- 1 保有総数の圧縮と耐震補強可能施設を明示すること。
- 2 施設重視から機能優先への転換可能施設と多機能化・複合化の実施計画を明示すること。
- 3 空き家となる可能性のある町有施設の再利用計画を明示すること。
- 4 再生のための町有施設の更新費用の試算（維持管理費を含む）と財源確保策並びに返済計画を明示すること。
- 5 計画策定までの町民参加の道筋を明示すること。



どうする今後の施設管理、着実な計画と実行

総合管理計画で明確にしていく

回答

町有施設の総合管理計画の中で、施設の基本的な考えを示し、将来の維持管理費用や機能の活用を判断していく。

施設の多機能化・複合化の実施計画を明確にしていく。

空き家となる町有施設は原則廃止するが、住民ニーズに応じて活用する。

町有施設の再利用は経費の試算を詳細にしていく。

管理計画の策定では町民の意見を反映するよう配慮する。

3 提言 6次拠点の運営 的確な販売戦略を

- 1 地域特性を生かし、高い付加価値を持った商品づくりの指導を行い、的確な販売戦略を立てること。
- 2 置賜農業高校や意欲あるグループ・個人との連携を重視し、その実績を生かせる運営とすること。
- 3 販売・加工のみならず、町民が集える場の確保および事業展開を図ること。
- 4 観光や公共交通の要所となるよう位置づけをいじう。

直販と食堂を連携し販売につなげたい

回答

商品を紹介して販売するだけでなく、商品の特徴を紹介し、調理法や新しい食べ方を提案するなど、情報を発信し、直販と食堂を連携し販売につなげたい。

置賜農業高校との連携については、これまでの実績を紹介し、生徒自らの商品展示・販売するブースを設置する。また意欲あるグループ・個人の活動も紹介し販売する。

集いの場の設置については、町内には気軽に利用できる施設がないため、買い物だけでなく、休憩スペースとして立ち寄れる施設にする。

町内の観光やイベント情報を発信し、デマンド交通利用者の待合所としても活用する。

4 提言 置賜病院周辺の土地利用 全体計画を示せ

- 1 早急に全体計画を示し、それに沿った実施計画を策定すること。
- 2 町が主体となって事業に着手すること。
- 3 若者定着に結びつく方策を実施すること。

調査結果により 計画を検討

回答

現在、病院周辺の土地利用の可能性を調査中である。結果ができた第全体計画、実施計画の検討に入る。

さらに、計画に基づき、地域住民の意見を聞き、町が主体となって関係機関と連携を図り、効果的な開発を図りたい。

若者定着とのつながりでは、人の出入りの多さを考え、魅力ある都市的機能の開発や誘導を積極的に進め、若者の定着や雇用の場の確保などを図りたい。



「森のマルシェ」 観光などの拠点施設となることに期待高まる



期待が高まる、公立置賜総合病院の周辺土地利用

第5次総合計画

12月定例会の
あらまし

12月定例会が12月2日から15日までの14日間の会期で開催された。
第1日目に、条例2件、川西未来ビジョン策定、広域協議会の廃止、指定管理者の指定5件、一般会計補正予算1件を一括上程し、常任委員会、予算特別委員会に付託した。
第2日目に、一般質問を行い5議員が産業振興など

を取り上げ、町政をただした。
第3日目以降に、常任委員会、予算特別委員会分科会を開き、議案を審査した。
最終日に、予算特別委員会の採決後、本会議を開き、選挙管理委員会委員、同補充員の選挙を行い、付託した10議案を原案通り可決した。請願審査の報告、意見書の提出2件、議員発議2件を可決して、閉会した。

「かわにし未来ビジョン」を可決 人口減少に立ち向かえ



未来を担う子どもたちの笑顔がうれしい

「かわにし未来ビジョン」策定の経緯

町第5次総合計画となる「かわにし未来ビジョン」が議会に提案され、審議された。

総合計画は、地方自治法で基本構想の策定義務と、議会議決が規定されていたが、地方分権により策定は自治体に委ねられた。

町では、「まちづくり基本条例」により総

合計画を策定することとし、議会では「議会基本条例」で基本構想、基本計画の議決を規定している。

本町は、昭和30年に「新町5カ年計画」を策定して以来、平成18年度からは「第4次総合計画」により、「人がやきダリヤと文化が咲き誇るまち」を目指してまちづくりを進めてきた。この計画が

27年度で終了することから、次期総合計画の策定に取り組んできた。

これまで、前期計画の検証、町民の意識調査、まちづくり委員会による計画の審議、まちづくり懇談会との意見交換、総合計画アドバイザーによる指導、助言等を実施し、10カ年の総合計画「かわにし未来ビジョン」が策定された。

議会の意見を反映

さらに議決機関である議会から、骨子案から最終案に至るまで、数回にわたり意見の聴取を行った。

議会では、政策提言や委員会審議、議員全員協議会において多くの意見が出され、これが未来ビジョンに反映されている。

夢と愛を未来につなぐまち

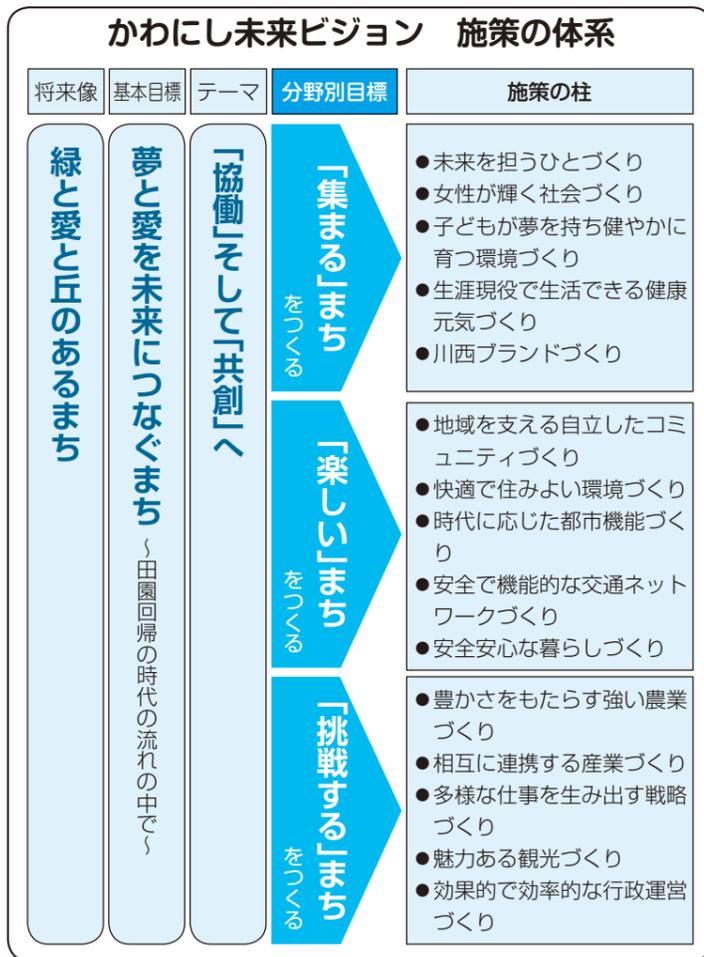
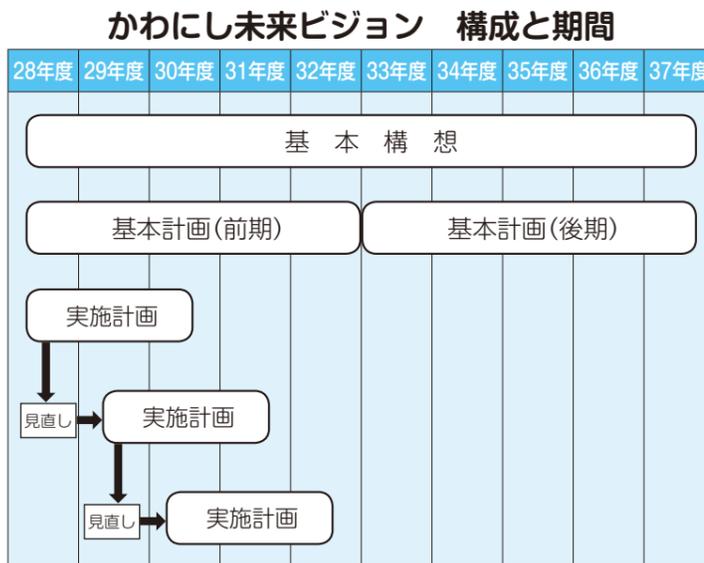
未来ビジョンの基本目標を「夢と愛を未来につなぐまち」～田園回帰の時代の流れの中で～とし、まちづくりのテーマを「協働」そして「共創」へ、とした。

さらに町は、まち・ひと・しごと創生法による人口ビジョンと総

合戦略を総合計画と同時に策定し、本町の最大の課題である人口減少対策に取り組む。

委員会審議において「町長、町職員のみならず、議会、町民が一体となり、計画の達成に全力で取り組むこと」との意見が付けられた。

全員賛成により可決



ミユキ精機に貸し付け

雇用創出に期待

一般会計補正予算の主なものは、産業立地促進のための支援事業などで、補正予算財源として財政調整基金6652万円を繰り入れる。

尾長島工業団地内にあるミユキ精機(株)川西工場が、本社工場(米沢市)の老朽化に伴い、川西工場の敷地北側に、鉄骨平屋で延べ床面積895㎡の工場を増築する。目的は製造拠点の集約化と生産効率の向上である。総事業費は2億604万円。産業立地促進のための商工業振興資金を活用し、県、町、山形銀行から1億7000万円の協調融資を受ける。このうち、川西町では金融支援事業貸付金として、5660万円を補正予算として計上した。平成28年6月に稼働を予定し、当面は本社工場で行っていた部門の移転のため、従業員の新規採用は行わない。今後は新たな製造品目の「大型ユニット32インチ透過液晶」の加工製造を行う。新分野への進出を狙い、持続的な企業の発展に向けて、地元の人材を計画的に雇用して行く予定である。また、将来的には製造拠点の軸足を川西工場へ置く、としている。

補正予算



新たな製造拠点として - ミユキ精機工場増築予定地 -

平成27年度 一般会計補正予算

会計別	歳入歳出予算	議決の内容
一般会計(第4号)	112億4636万円 (9692万円の追加補正)	全員賛成により可決

平成27年度補正予算(第4号)の主な内容

歳出(支出)	
人件費(職員時間外等)	1599万円
置賜広域行政事務組合負担金	322万円
母子保健妊産婦事業	50万円
農業経営体活性化事業	140万円
町有牛貸付管理事業	650万円
機構集積協力金事業	2960万円
中学校体育音楽事業	110万円
川西町交流館施設整備事業	224万円
冬季交通確保事業	840万円
小・中学校事務経費(光熱費)	330万円
道路維持管理経費	200万円
障がい介護給付等事業	6656万円
小学校維持管理経費	189万円
県単独道路整備事業負担金	201万円
金融支援事業 貸付金	5660万円
防災対策事業	▲1億1400万円
歳入(収入)	
障がい者自立支援給付費国庫負担金	2818万円
障がい者自立支援給付費県負担金	1409万円
農地集積集約化対策事業費県補助金	2960万円
町有牛売払収入	705万円
財政調整基金繰入金	6652万円
産業立地促進資金貸付金元金収入	5660万円
医療給付費負担金過年度精算金	360万円
県単独事業負担金債	200万円
防災施設整備事業債	▲1億1400万円

総務文教 第1分科会

問 人件費の増額は何か要因なのか。

総務課長 時間外勤務手当については、当初予算において業務量の見込みが難しいことから、一定額の予算とされている。本年度は、町誕生60周年記念事業、総合計画策定、マイナンバー対応の業務量の増加が要因である。

問 防災対策事業費の大幅な減額はどのようにしてか。

総務課長 防災行政無線整備工事が、落札率36%だったため、不用額を減額するものである。

問 番号制度事務事業の顔認証シス

テムは当町に必要なものか。

住民生活課長 平成28年1月より申請者に交付される個人番号カードに貼付される顔写真について、申請者との同一性を判断するために設置するものである。

問 小・中学校施設管理事業について消火器を更新することだが、消火器の総数は何本になるのか。

教育総務課長 小学校に216本、中学校に33本の計249本である。消防法により6カ月に一度の点検が義務付けられている。消火器により交換時期は異なるが、適正に対応する。

意見 廃棄処分となる消火器については、安全性に十分配慮したうえで、各学校や自主防災組織の消火訓練で使用するなど、利活用について検討すること。

産業厚生 第2分科会

問 母子保健妊産婦事業の内容はなにか。

健康福祉課長 不妊治療助成の申請者の増加に対応するため増額する。町では、助成額の上限を今年度5万円から10万円とした。当初2組を予定したが、7組となったため、5組分を増額。なお、県の助成額は15万円となっている。

意見 これまで25年度は3組、26年度は5組が治療に取り組んでいる。子育て支援を推進するため、なお一層、本事業の周知に努めること。

問 農地中間管理機構集積協力金交付事業の内容はなにか。

産業振興課長 人・農地プランによる、農地中間管理事業を活用した賃貸借の増加によって、協力を増額するものである。

問 畜産生産拡大支援事業の内容はなにか。

産業振興課長 肥育素牛、乳牛の生産拡大支援として、町の導入資金貸付に加えて県が導入補助を行うものである。

問 県単独道路整備事業負担金の内容はなにか。

地域整備課長 一般県道大塚米沢線、主要地方道287号の工事及び委託に係る、県単独事業の負担金である。町負担の割合は、雪害事業は5%、その他の事業は10%である。

子どもの「貧困問題」の支援は万全か

町長 — 各種の支援・援助を行っている

ここが聞きたい！

町政をたずねます

5人の議員が一般質問

定例会第2日目に一般質問が行われ、5人の議員が町政について質問しました。

通告順（発言順）に掲載いたします。

神村 建二 議員

- 1 「子どもの貧困問題」に対する対策は万全か
- 2 人口減少対策の「婚活対策」は十分か

伊藤 進 議員

- 1 産業振興策について
- 2 人材育成について
- 3 町民の要望活動について

伊藤 寿郎 議員

- 1 地域を担う学校づくりについて
- 2 観光PRについて

橋本 欣一 議員

- 1 町民表彰について
- 2 税外収入による財政の補完などについて

鈴木清左衛門 議員

- 1 続・観光ビジネスについて
- 2 農業の12次産業化ビジネスについて
- 3 内包する課題とイベント課の創設について

白抜きの数字は掲載された質問ですが、それ以外は紙面の都合により掲載できませんでした。その内容は、議会ホームページの録画中継によってご覧になれます。

一般質問とは
 一般質問は、町の行政全般（一般事務）に関し、執行者所見や疑義について質問できるものである。

質問する議員も受ける執行機関も十分な時間が必要なことから通告制とし、事前に質問内容を通告することとしている。本町議会では質問と答弁がかみ合うように、全文通告制がとられている。

また、質問に対する答弁書が作成され、一般質問当日の朝に全議員に配布される。質問時間は、1人につき質問答弁を含め60分以内で完了することとされている。

再質問からは、一問一答方式が採用されており、時間内であれば何度でも再質問ができる。

神村

全国的に「子どもの貧困」が問題視されている。いま全国で6人に1人が貧困のもとで暮らしている。特に経済的貧困は不十分な衣食住、低学力、育児放棄等を生み、子どもの心身に多くの影響を及ぼしている。教育、保育、医療等の分野で貧困をなくす必要がある。川西町の実態はどうか、子どもの生活の質をどのように保証しているのか。

町長

本町の実態としては、児童扶養手当の受給者数や生活保護を受けている子どもの世帯数は、ここ数年横ばいとなっている。子どもの生活の質の保証としては、児童手当や児童扶養手当の支給、無料化、母子父子寡婦福祉資金の貸付、修学・奨学金の支給、また経済的援助を希望する保護者に学用品費、給食費等の援助を行っている。

神村

「子どもの貧困ゼロ」に向けた町の条例を策定する考えは、研究していきたい。

神村

「子どもの貧困」はゼロを目指す取り組みが指して取り組むことが

神村

6月の少子高齢化対策の「婚活事業」について、さらに焦点を絞った「結婚を成就させる」視点で質問したい。いかに結婚してもらうか、結婚して初めて子どもが生まれるわけで、町が主体的に事業を展開していく必要があると考えるが。

町長

若者の出会いの場は平成26年度

結婚を促進する「仲人制度」

神村

町民と議員との意見交換会で、「以前は身近に仲人する人がいて結婚にゴールインする例が多くあった」という発言があった。周りに結婚していない独身者が多数いることを考えれば、現状に合う形での仲人

の仕組みがあつてしかるべきだと考えるが。

町長

仲人的存在として、来年度「ライフデザイナー」の設置を考えている。町内企業の担当者や従業員等を中心に、世話好きな方、積極的に話しかけてくれる方に依頼し、情報を交換し結婚に関する相談はもちろん、結婚相手の紹介や婚活に関する各種イベントへの誘導等、成婚へとつなげる役割を担っていただきたいと考えている。



神村建二 議員



子どもは国の宝

一般質問

町内企業の振興・維持の施策は

町長 — 「中小企業振興条例」を制定したい



伊藤 進 議員



「かわにし企業展」 下町ロケットの川西版

伊藤 町内各企業の振興・維持・発展は欠くことのできない地域経済の要・けん引役でもある。今後の雇用安定・維持・促進を確実なものとするための施策が求められているが。

伊藤 従来の企業・工業誘致は困難になってきている。地域経済に真正面から取り組み、活性化させるための条例制定が求められるが。

町づくりはひとづくり

伊藤 各分野の多岐にわたる活動を行うための人材育成と指導者養成が重要ではないか。また、教育委員会においてはどうか。

伊藤 将来の町づくりを担う若者や女性の人材育成、リーダー養成の他、町民全員が生涯をとおして、自らの意欲や能力を高め

發揮する「生涯現役プロジェクト」を重点的に取り組む考えである。人材バンク制度など、多種多様な、町民ニーズに対応できる講師・指導者の集約を図り、町民が求める学習の場をつくるための環境づくりと指導者養成に努める。

伊藤 女性が輝く社会づくりを目指し、男女共同参画の意識を高め、女性未来委員会

などの活動支援とあるが、男性も含め、地域全体としての意識改革が必要ではないか。

町長 女性の活躍が、町づくりには大切な観点であり、重要な担い手だととらえている。情報交換をしながら、幅広く意見をいただく。人材の掘り起こしという観点での事業である。

伊藤 各自治会・公民館などからの要望を施策に反映望に対する回答はどのようになされているか。

町長 内容を十分調査、検討し、早期に対応したい。次年度計画に盛り込むものもあるが、調整を必要とするものもある。十分対応しきれない部分があるが、実現に向けて努力していきたい。

町長 中小企業振興・内発型産業振興で地域経済の活路打開を図る、「中小企業振興条例」を制定する必要性を強く感じている。

町長 川西町商工業経営近代化基金条例を中小企業振興条例に組み入れる形で制定し、商工業振興の総合的な条例となるようにつくり上げていく。

町長 フレンドシップラザを通じた文化活動、ホッケー競技などのスポーツ大会、かわにし夏祭りや川西ダリヤ園などのイベントを通して、高校生をはじめとする若い世代が活躍できる体制を整え、その活動を支援し、その活動が町全体に波及するよう情報発信したい。また県と連携した職場体験やインターシップなど、小・中高それぞれの段階に応じた体験的なキャリア教育に取り組んでいる。

町長 これまで生徒会役員選挙や模擬投票を試み、理解に努めてきた。今後はさらに「政治的中立性」を保ちながら、政策を分析し、政策の背景が分かる授業の取り組みなどを研究し、対応していきたい。

町長 川西ファンや観光者数拡大に向けて、各種情報を集積し、町と受入組織、観光団体が協働しながら、観光戦略を進めている。近隣他市町とも連携し誘客のターゲットを絞り込み、タイムリーに

情報を提供し、本町に人を呼び込むようPRに努めたい。議会視察受け入れが今年度27件となっており、町内での食事や宿泊、ダリヤ園への入園を勧める取り組みを行っている。行っていただいている。

担い手が活躍できる場所はあるか

町長 — 若い世代の活動を支援する

伊藤 地域の担い手を育て活躍する場所はあるのか。

町長 置賜農業高校を例にあげると、羽前小松駅や駅前を中心市街地の活性化、農業を中心とした産業振興・特産品開発、6次産業化など本町の特性を学び、斬新な発想力と活発な行動力を発揮いただいている。今後も若い世代にしかできない活動を支援し活躍する場所・機会を設けるように努めたい。

伊藤 活性化を図る上で、今後自治体の体制は、

伊藤 18歳選挙権における有権者となる事前学習は、

伊藤 ①川西町誕生60周年イベントの結果について②森のマルシェのPR方法について③新しい観光PR方法手段等の取り組みについて④議会視察受け入れによる相乗効果は、



伊藤寿郎 議員



置賜農高生も川西のPRに役 — 銀座 おいしい山形プラザ

一般質問



橋本欣一 議員

町民表彰を拡大すべき

町長 — 顕彰活動の充実を図りたい



新設の川西町商工業振興賞第1号を受賞する井上氏

橋本

例年11月3日に実施される町民表彰は、今年から川西町商工業振興賞が加わり、第1号として井上京七氏が受賞され、より充実が図られた。

町内外には、町に關してさまざま貢献された方が、まだまだおられると思う。今後活躍いただくためにも、表彰範囲を拡大充実して対象者を広げるべきではないか。

町長

町の表彰は、昭和50年から川西町条例表彰、56年から長堀堰農業振興賞を創設、本年から商工業振興賞を付け加えた。ほかに各種大会においてそれぞれ表彰し、感謝を表わしている。平成22年には「川西町緑と愛と丘活き活き顕彰」を設け、身近な活動に對して顕彰してきた。今後、柔軟に対応したい。

橋本

伝統工芸、郷土芸能、職業技能者などにも範囲を広げ、特に女性の表彰者を増やすべき。表彰により、町民一人ひとりを鼓舞し活力ある町の一助にすべき。

税外収入による財政への補完の考えは

橋本

ふるさと納税制度により、天童市は20億円、米沢市は10億円の寄付があるといる。返礼品の工夫により、より効果が得られないか。町内企業の文房具セットやアミューズメント機器提供など、食料品・物産だけでなく範囲を広げて増収を図ってはどうか。

町長

町内企業の製品を検討している。寄付者の利便性を考え、寄付回数制限を撤廃し、クレジット決済も導入する。既存の資源の活用とともに新たな

資源の掘り起こしをしを拡大したい。

橋本

最近クラウドファンディングやPFIなどの民間による施設整備投資が注目を浴びている。庁舎・中央公民館・健康福祉センターなどの建設財源不足の中で、一つの手法と考えられるかどうか捉えるか。

町長

クラウドファンディングはふるさと納税として取り扱えるため、資金提供者の共感が得られるよう魅力アップを図りたい。PFIはすべての業務を長期の契約として、設計・建設・維持管理・運営などを民間に委ねるため、事前に慎重な調査等の業務が増え、導入の事例を示すことはできない。将来的に選択肢の一つとして研究したい。

川西の魅力 観光に生かせ

町長 — 旅行者の満足度を高める工夫必要

鈴木

観光ビジネスへの展開を図るため、名所巡りのルート設定を提案する。タクシー会社による定期観光タクシーツアーを運行することで、さらに川西町の充実した観光産業がスタートする。羽前小松駅で迎え「聞こえるか、大和の息づかい」の下小松古墳群から始まり、天神森古墳、酒蔵と試飲、昼食は「本場で味わいたい米沢牛すきやき」を設定し、午後は「本間喜一はここから始まった」生家を訪ねる。最後は「森のマルシェ」でくつろぎ、羽

前小松駅へと至るコース。しかも、米坂線ではリアルジオラマ（箱庭のような風景）が味わえるから、鉄道ファンにはたまらない区間があることを、PRすべきだろう。このような、オプショナルツアー方式を取り組むかを問う。

町長

昨今の旅行者のニーズは、団体旅行から個人旅行へ、そして発地型旅行から着地型旅行に変化している。伝統料理や自然環境、歴史を伝える周遊コースの開発等旅行者の満足度を高める工夫が重要であると考え

ている。

町のイベントのありかた

鈴木

まちが主催するイベントのあり方と、イベント課の創設について問う。まちのイベントの調整は何処が行っているのかを問う。現状はゆとりのある、のんびりした状況とはいえないのではないだろうか。さながら、沈まないようにイベントで埋め尽くして浮かしているような気がしてならない。このような状況にあって、イベントやまつりごとを見直してゆとりを持った町づくりを、

イベント課とともにつ

くれないかを問う。

町長

イベントの調整については、現在それぞれの所管課が事業の開催を進めている。総合的な調整、精査の段階に至っていないが、今後は情報発信の

その他

他に農業12次産業化ビジネス、スーパかぼちゃのハイブリット化などを質問した。



鈴木清左衛門 議員



町の貴重な観光資源である「豊年獅子踊り」

※農業の12次産業化 6次産業(①生産の1次②加工の2次③販売の3次)に、他分野である④子育て⑤教育⑥福祉⑦保健・医療⑧エネルギー・環境⑨交流を加えたもの。

※1クラウドファンディング(英語) インターネットを利用し、不特定多数の人が、財源の提供を行うこと。
※2PFI(プライベート・ファイナンス・イニシアチブ) 公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う手法。

条例

教育委員会制度の改革

新「教育長」が代表者に

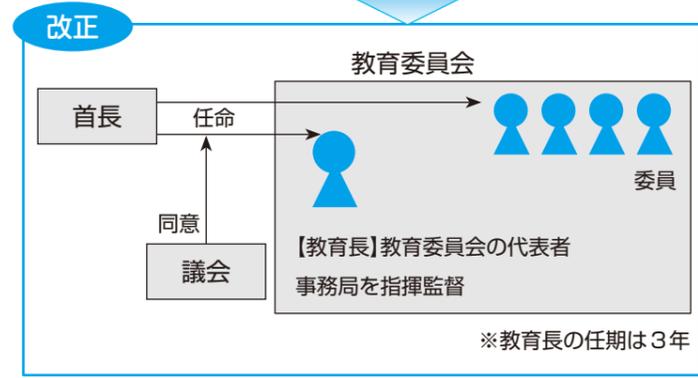
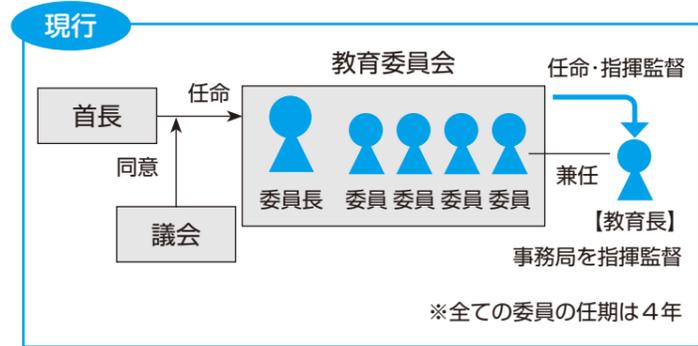
法の改正により、教育委員会制度が大きく変わった。新教育長は教育委員長と一本化され、町長が議会同意を得て教育長を任命する。

平成27年4月1日より、教育の政治的中立性、継続性・安定性を確保し、責任の明確化、迅速な危機管理体制の

構築、首長との連携強化を図るため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部が改正された。これに伴い、町教育長に関する

条例を設定するもの。主な内容は、教育委員長と教育長を一本化した新「教育長」を設置する。現行は、教育委員会の代表である委員長の他、事務執行の責任者として教育長を教育委員会が任命していたが、新「教育長」は町長が任命することになる。

また、すべての地方公共団体に「総合教育会議」が設置される。町長と教育委員会を構成



町長と教育委員会を構成するもの。主な内容は、教育委員長と教育長を一本化した新「教育長」を設置する。現行は、教育委員会の代表である委員長の他、事務執行の責任者として教育長を教育委員会が任命していたが、新「教育長」は町長が任命することになる。

また、すべての地方公共団体に「総合教育会議」が設置される。町長と教育委員会を構成

町長と教育委員会を構成するもの。主な内容は、教育委員長と教育長を一本化した新「教育長」を設置する。現行は、教育委員会の代表である委員長の他、事務執行の責任者として教育長を教育委員会が任命していたが、新「教育長」は町長が任命することになる。

税条例、徴収猶予を規定

- ・ 職権による換価の猶予の手続き
- ・ 申請による換価の猶予の手続き
- ・ 徴収の猶予及び換価の猶予に係る担保の徴収を要しない場合

賛成多数により可決 (反対1人)

議会として、教育の政治的中立性に重きを置くよう意見を付した。

フレンドリー・プラザなど、町有施設の指定期間満了に伴い、公募によらず、これまでの指定管理者10団体を新たに指定管理者として指定した。

公募によらず指定管理者を選定した理由は、以下のとおり。各地区交流センター等の経営母体の2期7年間の業務実績に対する評価は、機能が十分

に加え、賑わいを創出する新たな事業への参画、複合施設としての特色を生かし今後の事業の進展に大きく貢献することが期待できる。川西町民体育館等は、

町民の健康・体力づくりの拠点としてスポーツ活動の振興に努め、町民が求める事業の充実・サービスの向上に専門的知識を生かし、大きな役割を果たしている。

以上のことから公募によらず上の表の指定管理者を指定する。

全員賛成により可決

債務負担行為

債務負担行為は、一つの事業や事務が単年度で終了せずに、後年度においても支出しなければならぬ場合には、議会の議決を経て期間と負担額を確定させ、後年度の負担を確約するもの。

広域の視聴覚協議会廃止

東南置賜2市2町が共同し視聴覚教材・機材を購入し貸出を行う広域の協議会を廃止する。近年は、16ミリフィルムやVHSなどは、DVDへと進化し共同購入する意義が薄れている。

全員賛成により可決

また、構成自治体が独自に購入するケース

指定管理者

フレンドリープラザなど公募によらず指定

公の施設の名称	指定管理者となる団体の名称	指定の期間	債務負担行為額
川西町斎場	有限会社川西葬祭社	平成28年4月1日から平成31年3月31日まで	3620万円
川西町フレンドリープラザ 川西町立図書館 遅筆堂文庫	特定非営利活動法人 遅筆堂文庫プロジェクト	平成28年4月1日から平成33年3月31日まで	3億6000万円
川西町民総合体育館 川西町総合運動公園クラブハウス 川西町総合運動公園ホッケー競技場 川西町総合運動公園多目的運動場 川西町総合運動公園	一般財団法人 川西町体育振興公社	平成28年4月1日から平成31年3月31日まで	1億2700万円
川西町小松地区交流センター 川西町大塚地区交流センター 川西町農業センター 川西町犬川地区交流センター 川西町中郡地区交流センター 川西町農業研修センター 中郡農村公園	小松地区地域振興協議会 大塚地区社会を明るくする協議会 いぬかわ振興協議会 中郡地区社会教育振興会	平成28年4月1日から平成33年3月31日まで	4億600万円
川西町玉庭地区交流センター 川西町克雪管理センター 玉庭農村公園	玉庭地区交流センター 四方山館	平成28年4月1日から平成33年3月31日まで	930万円
川西町東沢地区交流センター 東沢生活改善センター 東沢農村公園	東沢地区協働のまちづくり推進会議	平成28年4月1日から平成33年3月31日まで	
川西町吉島地区交流センター 川西町多目的研修センター 吉島農村公園	特定非営利活動法人 きらりよしじまネットワーク	平成28年4月1日から平成33年3月31日まで	
川西町東沢活性化センター 東沢舟山公園	東沢地区協働のまちづくり推進会議	平成28年4月1日から平成33年3月31日まで	

※公募によらず 本来、指定管理者は公募によることを原則としているが、特別な理由がある場合は公募によらず指定することができる。

請願

安全保障関連法の廃止 賛成多数で採択

採択

◎安全保障関連法を廃止することを国に求める意見書提出の請願

《所管》
総務文教常任委員会
《請願者》
東置賜地区
平和センター
議長 斎藤富士雄
《紹介議員》
高梨 勇吉

して、意見書の提出を求める趣旨のものである。審査に当たって委員からは、戦争に導くような法律で憲法学者等多くの有識者が違憲と唱えており採択すべきとの意見や、日本国民を守るための必要最低限の法律であるから採択にすべきとの意見が出された。

批准しないことを求める意見書提出の請願

《所管》
産業厚生常任委員会
《請願者》
川西町農民組合
組合長 平田 啓一

本請願の審査に対し、委員からは現時点ではある程度容認すべきものとなっており、今後はその上で対応していくべきとの意見や、本議会では、これまでTPPは反対の姿勢を唱えてきており、今後も

選挙管理委員会委員・同補充員を選任

平成27年12月31日をもって任期満了となる選挙管理委員会委員・同補充員の選挙を実施した。いずれも議長の指名推薦で計8人を選んだ。任期は平成31年12月31日までである。

〈選挙管理委員会委員〉

- 島 貫 武 彦(再任)
川西町大字小松
- 小 林 美代子(再任)
川西町大字上小松
- 山 口 丈 志(新任)
川西町大字堀金
- 松 田 良 弘(新任)
川西町大字洲島

〈選挙管理委員会・補充員〉

- 長谷川 謙 治(補充第1順位)
川西町大字玉庭
- 佐々木 弘 幸(補充第2順位)
川西町大字上奥田
- 鈴木 秀 次(補充第3順位)
川西町大字大塚
- 鈴木 ゆり子(補充第4順位)
川西町大字下奥田

全員賛成により当選

全員賛成により当選

《紹介議員》
鈴木 幸廣
斉藤 智志
《審査の経過と結果》
採決の結果、賛成多数で採択すべきものと決した。

賛成多数により採択 (反対1人)

人事

意見書

2意見書を国に提出 TPP「大筋合意」撤回せよ

2件の請願を採択したことにより、国に提出する2意見書を審議した結果、いずれも賛成多数で可決された。



関心が高く、満席となったTPP意見交換会 -JA山形おきたま-

アメリカ・アトランタで行われたTPP閣僚会合で「大筋合意した」という内容は、主食であるコメにTPP輸入枠を新設、牛肉・豚肉関税の大幅引き下げなど、重要農産品での関税撤廃や輸入枠拡大を受け入れたにも係わらず、「関税撤廃に

例外をつくったから国会決議は守った」としているが、協定本文の詳細を速やかに開示し、国会決議に違反する場合は撤回すること。

安全保障関連法廃止を求める

「安全保障関連法」は、衆・参特別委員会における参考人をはじめ、多くの憲法学者、有識者、文化人らが違憲であると断じている。我が国を防衛するため必要最小限の範囲にとどまるべきであると

持ってきた解釈を一蹴し、本法案を成立させた。よって、「安全保障関連法」を廃止することを強く求める。

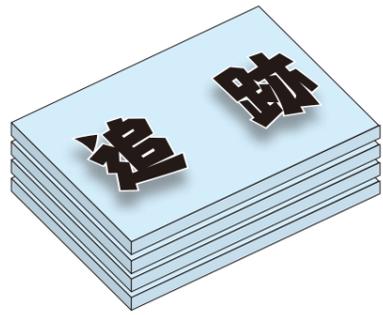
提出先 衆議院議長
参議院議長
内閣総理大臣
賛成多数により可決 (反対6人)

12月定例会の議決状況

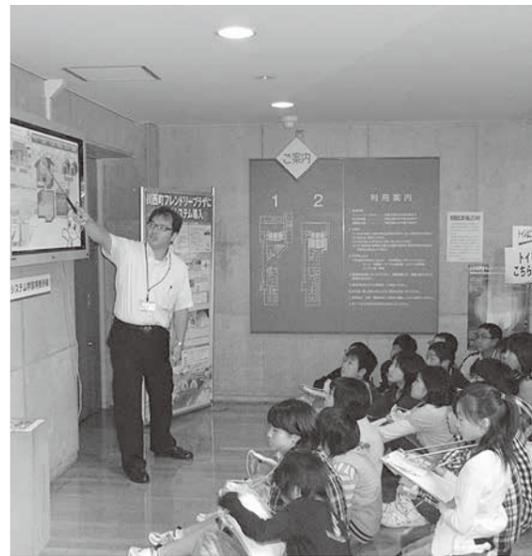
議会基本条例の規定により各議員の議案に対する賛否状況を報告する。

議席番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
議員名	伊藤 寿郎	伊藤 進	鈴木 幸廣	鈴木清左衛門	神村 建一	橋本 欣一	遠藤 章一	齊藤 智志	淀 秀夫	齋藤 修一	高梨 勇吉	金子 一郎	佐々木賢一	高橋 照夫	加藤 俊一
議第75号 教育長の職務に専念する義務の特例に関する条例の設定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
教育委員会制度の改正により、教育長と教育委員長が一本化される	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
安全保障関連法を廃止することを国に求める意見書提出の請願	×	○	○	○	○	○	×	○	×	×	○	×	×	○	
総務文教常任委員会の採決は、賛成3、反対3、委員長裁決で採択															
TPP交渉「大筋合意」は撤回し、調印・批准しないことを求める請願	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
産業厚生常任委員会の採決は、賛成4、反対2で採択															
安全保障関連法を廃止することを求める意見書の提出	×	○	○	○	○	○	×	○	×	×	○	×	×	○	
TPP交渉「大筋合意」の撤回を求める意見書の提出	×	○	○	○	○	○	×	○	×	×	○	×	×	○	

町提案10議案、選挙1議案、請願審査2件、議員発議4議案で、上記以外は出席者全員賛成。○は賛成、×は反対 議長は賛否に加わらない。



あれから…… どうなった!



なるほど雪も役立つのか — 雪冷房システムを学ぶ

厄介者の雪を利用してエネルギーに変えて活用し、環境にやさしいまちづくりを進める計画である。

電気冷房の年間維持費の315万円に対し、雪冷房では210万円となり、年間で最大約100万円の経費節減となる。また、CO₂(二酸化炭素)の排出を年間8トン抑制する。

COOP(コップ)21の開催で地球規模でのCO₂(二酸化炭素)の削減が話し合わせられ、地球温暖化の防止が改めて話題に上った。町では、平成20年川西町地域新エネルギービジョンのもと、フレンドリープラザの冷房に雪を利用したシステムを導入した。その後を検証してみる。

雪冷房 効果を発揮 温暖化対策に有効

地球温暖化学習発表にも利用

地球温暖化の問題は目に見えてその影響が感じられないため、つい関心が薄くなる。しかし、暖冬やゲリラ豪雨などの異常気象一つとっても、決して見逃せないものである。そのため、次代を担う子どもたちに対して意識付けをするために、出前講座などで啓発、教育が行われた。フレンドリープラザ内にも学習用の50型タッチパネルディスプレイが設置され、来館者にも利用されている。

2次的な活用や問題点も

雪貯蔵するエコスノードームは厚さ4・5ミリの鋼板、厚さ20センチの断熱材が張ってあり、2棟で963トン(ダンブカー190台分)の雪を貯蔵できる。当初、美女木地区の排雪も含め、利用予定であったが、排雪に含まれる土砂、ゴミ、落ち葉などが混入し、管理が大変であるため、ドーム前の雪のみの利用となった。

農産物を中心に、雪室として活用の実証実験も開始され、米、そば、野菜などの貯蔵実験も始めた。しかし、もともと雪室としての設計ではないため貯蔵量の問題、年間通しての実験ができないなど、期間中のデータ収集のみとなった。今後温暖化抑制の旗印として活用したい。



表紙の写真

願いをこめて

中郡地区交流センターでは、「すぎの子クラブ」の年末恒例の餅つきが行われた。今ではめずらしい白と杵による餅つきである。クラブでは楽しみの行事で、子どもたちはお父さんお母さんに手伝ってもらいながらつきあげた。家庭ではなかなか味わえないことである。

つきあがった餅はいろいろな味付けがあったが、子どもたちの一番人気は「きな粉餅」であった。今年の餅はひととき粘りがあっておいしいものとなった。元気で粘りのある一年にしてもらいたい。

6次産業化拠点施設

工事費を増額

臨時会

10月26日に第6回臨時会が招集され、「6次産業化拠点施設建設工事変更請負契約締結」と、「6次産業化拠点施設什器の財産取得」の2議案が提案された。

第6回臨時会

6月定例会で議決された6次産業化拠点施設建設工事について、8項目にわたる、増額

変更の提案がなされた。変更となったのは、総菜加工用機種、冷凍ショーケース、路盤材、北側フェンス仕様変更、西側ガードパイプ設置、駐車場区画線・ロード



「かわにし森のマルシェ」 — 春のオープンに向けて着々と整備が進む

サイン使用変更などである。

作業効率と施設の充実を図り、より利用しやすい施設とするための変更である。

当初請負額2億700万円、増額変更額858万9240円。

総額2億7858万9240円。工事請負者は株式会社殖産工務所。

全員賛成により可決

商品陳列棚を購入

6次産業化拠点施設の財産取得(什器の取得)として、商品陳列の棚を購入するため提案された。販売品の視覚の効果を上げることにもなる。

指名競争入札の結果株式会社小泉創芸が537万8400円(消費税含)で落札した。

全員賛成により可決



吉島 小形あつ子さん

広報モニターから ひとこと②

ダリアの花が咲き誇るその時期の9月に、女性5人で議会傍聴をさせていただきました。初めての経験なので緊張しながら議場に入り一番先に目にしたのが凛として高級感あふれるダリアの生け花です。来年もきっと素敵に生けて下さるでしょう。

モニターを依頼された時、「うわー、どうして私に?」モニターの役をできるかと、心配したことも忘れることができませぬ。私はこの町に生まれ育ち64年になります。世の中もすっかり変化してしまいました。そんな時代を議員の方は町のため、地域のために、少しでも住みよい町にという思いで質問されている姿を感じることができました。特に企業誘致に力を注ぎ、一人でも多くの若者がこの町で働き、活性化へと導く等々のことに、精一杯の心で頑張っていたら、ことを強く希望します。また、二人位の女性議員がおられたら議場の雰囲気も違うのではないだろうかと感じました。一瞬政治家になれたようであれよかったです。

議会運営委員会 活性化にタブレット端末を導入 福島県塙町議会を視察



タブレット導入の説明をきく——塙町議会で

11月19～20日、福島県塙町議会と茨城県大洗町議会を訪れ、「タブレット端末の導入」と「議会運営及び議会活性化」についての先進地視察を行った。

塙町議会のタブレット端末の導入

平成25年3月議会に情報化推進委員会を設置し、導入を決定。端末機器の操作を議員が習得し、開かれた議会改革と情報伝達に活用している。デメリットの要素もあるが本町議会もタブレット端末導

入計画に向けて検討する必要がある。

大洗町議会の運営と活性化

住民報告会、懇談会などを開催しながら議会との関わりに重点を置き、議会活性化に取り組んでいる。また議員の一般質問のためのPRチラシやポスターをつくり、町内のコンビニなど70カ所余りに配布。高校生議会を開催し、高校生と議員が昼食をとるなど好評のようだった。

利用を大型スーパーにも拡げるべきだという消費者要望に、どのように対応するか話し合われた。この制度はあくまでも町内商店の売り上げの向上を図るもので、大型スーパー利用を可能にしたら、大半が大型スーパーに流れてしまい、町内商



日常的な情報交流が求められる

産業厚生常任委員会 プレミアム商品券など意見交換 商工会役員と協議

11月26日に恒例の商工会役員との交換会を開催した。商工会側からは20人の参加で、関心の高さがうかがえた。今年の議題の中心は、プレミアム商品券の在り方が話し合われた。今年度は20パーセントの割増しがつき、お買い

利用を大型スーパーにも拡げるべきだとい

商工会役員と協議

店振興という目的に沿わなくなる。現状では

広報広聴常任委員会 全国研修会で注目 本町議会だよりが紹介される

10月20～21日に開催

された、全国広報研修会に参加した。新広報委員での初めての全国研修であった。特に、今年の研修は、広報コンクール最優秀受賞後の初めての研修で、編集工程が詳しく紹介されるという注目をされるものとなった。

1日目は、小田順子氏（広報コンサルタント）、畠田千鶴氏（地域活性化センター広報室）両講師による講義が

開放という方向には厳しいという意見であった。また、利用期間限定もあり、季節商品の購入に集中しがちで、売れ行きに片寄りがあるなど、利用の方法も考える必要があるよう

また、利用目的も消費者向けなのか、商店向けなのかなどはつきりさせ、特徴ある利用を考えるべきなどの意見が出された。



1000名の参加者を前に - 佐々木委員長の説明 -

まちの未来が見える（12月定例会の傍聴者は32人）
議会傍聴においでください
次の定例会は3月

定例会本会議、予算特別委員会は
NCV、インターネットでご覧になれます

総務文教常任委員会 働くお母さんを応援 病児保育 美女木「げんきルーム」



期待が高まる「げんきルーム」

10月23日、病児保育の現地視察調査で、町内の施設「げんきルーム」を視察した。病児保育は、就労している保護者などが、こどもの病気の際に保育が困難になるため、こうした児童を保護者に代わり、一時的に保育する

ものである。「げんきルーム」の対象は、生後2カ月から小学3年生までの病気の児童で、定員は3名となっている。開設時は、利用者が集まるか不安視されたが、当初の想定を上回り、感染症の流行があると予約がいっぱいとなっている。

また、併設の「美女木げんき保育園」は0歳から2歳までの低年齢幼児の保育に特化しており、働いているお母さんなどからの需要が多く、定員30人に対して毎年多くの入所希望がある。

本町の先進的な両施設への期待が、益々高くなってきている。



プロフィール

塩野恵里子

米沢市生まれ 夫、子ども3人(男) 家族 父、母の7人家族 趣味 音楽活動 仕事 中郡地区交流センター勤務

犬川地区にお住まいの、塩野恵里子さんに、子育てや町に望むことを聞きました。

にぎやかで活気のある町に

家族に感謝

川西町に嫁いでからあつという間に16年が過ぎました。豊かな自然に囲まれて、3人の息子たちも四季の移り変わりを肌で感じながら、のびのびと成長しています。

子育てをしながら、一番に思うことは、家族への感謝です。会合やイベント等で外出することがあっても、家族の理解と協力のおかげで活動を頑張ることが出来ます。子ども中心の生活で、支え合いながら子育てができるので、同居のありがたさを感じています。

社会参加を心がけて

私は趣味で吹奏楽をしており、川西町のアンバーサリーバンドに所属し、町で行われる



家族に囲まれて

イベントや成人式などさまざまな場面で演奏する機会があります。長男と次男も中学校で吹奏楽部に所属しています。川西町音楽見本市では合同演奏で親子一緒に同じステージで演奏ができ、趣味を通じてとても良い経験をさせていただきました。

どんどん情報発信を

さまざまな活動の中ささまざまな活動の中たり、楽しみながら女性の視点で地域おこし活動に取り組んでいます。

また、川西町の女性たちが元気に活躍できるまちづくりを目指し、川西町女性未来委員会にも所属しております。今年の川西町産業フェアでは、オリジナルスイーツ「まるごと紅大豆」をふるまったり、川西町産のいろいろな豆を使ってかわいいアクセサリーを作

川西町は人と人とのつながりがすごく強い町だと思います。若い人たちが魅力を感じ、高齢者が安心して暮らせるまちづくりを進め、これからもどんどん情報発信してください。たくさんの方に川西町に足を運んでいただき、にぎやかで活気のある町になってほしいと思います。

編集のあとで

▼明けましておめでとうございます。本年も議会だよりをよろしくお願いたします▼新年にふさわしく、本町における「女性議会」と「未来ビジョン」に大きく紙面をとりました。特に女性議会は、原田町長の言う「模擬議会であり、広報広聴活動の一環である」という意義が達成された内容となりました。(清)

- 発行責任者 加藤 俊一 委員長 佐々木賢一 副委員長 橋本 欣一 委員 鈴木清左衛門 鈴木 幸廣 同 伊藤 進 同 伊藤 寿郎 同 伊藤 進 アドバイザー(文章) 金子 勤 アドバイザー(写真) 青木 和雄 平田 和雄 アドバイザー 青木 督平 鴨 源一 齋藤 史郎